

流

晩秋号



秋の山紅葉をぬさとたむくれば
住む我さへぞ旅心地する 紀貫之
秋の山が紅葉を幣のように手向けるので、ここに住んでいる私も旅している気持ちになる

まもなく二十四節気の一つ『立冬』です。この日から立春の前日までが暦の上では冬となります。木枯らしが吹き、冬の訪れを感じる頃。太陽の光が弱まって日も短くなり、木立ちの冬枯れが目立つようになります。木枯らしが吹くのは、冬型の気圧配置になった証拠です。